

事務事業名	歴史資料館管理事業					事務事業No.	573 - 1						
1. 基本情報													
担当部	担当課		担当係		作成者職名	作成者氏名		所属長職名	所属長氏名				
教育部	文化課		文化財活用担当		主査	吉田 善彦		課長	瀬尾 善忠				
施策体系	総合計画	政 策	5	教育・文化									
		施 策	7	歴史的・文化的遺産の保護と活用									
		基本事業	3	教育・観光への活用の推進									
	その他の計画		個別計画		なし								
根拠法令・条例・要綱等	地方自治法第244条の2第1項 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条 社会教育法第5条 飯塚市歴史資料館条例第1条及び第3条 九州博物館協議会会則 福岡県博物館協議会会則												
事業開始年度	昭和56年度		事業終了年度		継続		事務事業類型		施設維持管理事業				
実施手法	一部委託		補助金等の支給		負担金あり		実施計画期間		なし				
2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）													
概要	館の維持管理に必要な業務を実施し、考古資料その他の文化財の収集・調査・保存・活用、講座等教育普及活動の実施により、郷土の歴史・文化財に対する市民の理解と認識を深め、市民の文化活動、生涯学習に寄与することを目的としている。												
対象	働きかける相手・もの	施設、考古資料・民俗資料・古文書・炭鉱関係資料等の文化財、市内外からの入館者。											
手段	方法・働きかけ（活動指標）	館の維持管理に必要な業務。考古資料その他の文化財の収集・調査・保存・活用。講座の開催等による教育普及活動の実施。											
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	施設の保全、考古資料その他の文化財の適切な保存管理。市民が郷土の歴史・文化財について理解と認識を深める。飯塚市の歴史・文化財について、その魅力を広く市内外に情報発信する。											
3. 活動指標（決算成果説明書と連動）													
指標名		単位	指標の説明（算式等）			前年度実績	本年度実績	次年度見込					
開館日数		日	開館した日数			305	308	306					
資料収集・調査		回	資料の収集・調査の回数			4	7	6					
講座等の開催		回	講座の開催回数			10	12	13					
4. 成果指標（決算成果説明書と連動）													
指標	入館者数	単位	達成目標値			前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		人	10,314		目標値	10,314	10,314	10,314					
説明	年間入館者数	方向性	達成目標年度		実 績	6,494	7,691						
		維持	毎年度										
指標	資料収集数	単位	達成目標値			前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		点	50		目標値	50	50	50					
説明	寄贈・寄託資料の資料数	方向性	達成目標年度		実 績	130	43						
		維持	毎年度										
指標	講座受講者数	単位	達成目標値			前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		人	185		目標値	185	185	185					
説明	講座受講者の延べ人数	方向性	達成目標年度		実 績	197	367						
		維持	毎年度										
5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）													
経費区分	一般会計	義務的経費・經常経費				特別会計	－						
予算科目・事業	会計	1	一般会計		款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	4	文化財保護費
	大	4	歴史資料館管理運営事業費		中	1	歴史資料館管理費		他 1 事業				
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	(R2以降)	前年度実績(千円)		本年度実績(千円)		増減理由(10%以上の場合)			次年度予算(千円)				
	正職員	0.53	人	4,212	0.45	人	3,665	人件費の減。 直接事業費の増。	1.12	人	9,122		
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	再任用短	0.14	人	490	0.14	人	502		0.20	人	716		
	1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	1級パート	1.15	人	2,415	1.50	人	3,945		2.20	人	5,786		
2級パート	0.50	人	1,373	0.00	人	0	0.00		人	0			
人件費計(A)		8,490		8,112					15,624				
事業費	直接事業費(B)	18,068		21,232					22,490				
	総事業費(A+B)	26,558		29,344					38,114				
直接事業費のうち の主な歳出内訳	光熱水費	3,720		4,137					4,808				
	清掃等管理委託料	6,795		7,001					7,562				
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)	683		872					842				
	国・県支出金	8		0					0				
	市債	0		0					0				
	一般財源	25,865		28,470					37,270				
	その他(つり銭貸付金元金収入)	2		2					2				

6. 事務事業の事後評価★

評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価	高い	地方自治法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、社会教育法、飯塚市歴史資料館条例等に基づいて、飯塚市の歴史・文化財を展示紹介し、入館者から入館料を徴収しているが、施設の老朽化に伴い修繕等も増加しており、市の管理費は増加傾向にある。
効率性 評価	低い	施設の老朽化に伴い修繕等も増加しており、収入が入館料等だけでは、市の負担する管理費は増加傾向にある。
有効性 評価	高い	貴重な文化財を適切に保管し、市民に広く公開している。文化財の保存管理は、その性質上、期限を設けてできるものではなく、また、教育普及事業はすぐにその効果が現れるわけではないため、長期間の継続性が必要。

7. 前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに実施できる改善策	ホームページ、報道機関への広報活動を継続して実施する。
	現状維持		
	一次評価	コストの方向性	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策
現状維持			

前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度を実施できたこと、などを記入

企画展、常設展示、講座について、ホームページ、報道機関を通じて広報した。入館者アンケートを実施した。新たに市が受け入れた野見山峯治氏関係資料の調査を行い、企画展で展示し公開した。

8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★

〔成果〕

古文書講座、歴史講座、館長講座、おもしろ体験歴史館、昔のくらし体験などの講座等を開催し、郷土の歴史、文化財を広く市民に公開した。

〔課題〕

今後も入館者のニーズに合った講座、展示等を実施する。新しい資料の収集、調査、展示を行う。

9. 今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	〔理由〕 コロナ前の来館者数を目標に、来館者等の要望に傾聴し、時代に合った企画展等を計画し、他市町村の講座、展示情報を参考に集客に努める。
現状維持	
コスト投入の方向性	〔理由〕 文化財の保存管理、教育普及事業は、急激にその効果が現れるわけではなく、長期間の継続性が必要である。経費節減に努め、継続しての運営を図る。
現状維持	

次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★

コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	ホームページ、報道機関などを活用した情報発信に努める。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	老朽化した施設設備について、計画的に修理を実施する。

評価変更理由

	成果の方向性	他の社会教育施設との統合や、広域連携、PPPによる建て替えを検討すること。
	統合	
	コスト投入の方向性	
	縮小	他の社会教育施設との統合や、広域連携、PPPによる建て替えを行う中で、一時的にコストは拡充するが、最終的に収入増となり、最終的にはコスト削減につながるため。